

熊本でサッカーを“プレーする・応援する・支える”すべての人に

KFA NEWS

Kumamoto Football Association News ▶ <https://kumamoto-fa.net/>2020.9
AUTUMN No.18

熊本県サッカー協会広報紙

2020年9月30日発行 通算第102号

発行者／一般社団法人 熊本県サッカー協会 広報委員会

特集

新型コロナウイルス感染拡大を受けて
Withコロナに向けた各種別・委員会の今後

3月以降、国内での感染が拡大した新型コロナウイルスは、私たちの生活にさまざまな影響を及ぼしました。日常生活の中での外出自粛や飲食店等の営業自粛などの不便はもちろん、サッカーをはじめとするスポーツも、観戦することもプレーすることもできない日々が続きました。

ただ、緊急事態宣言が解除され、新しい生活様式の下での日常がスタートし、6月ごろからようやく県内でもサッカーファミリーの活動が再開されはじまりました。

感染拡大はまだまだ予断を許さず、感染防止に努めながらの活動にはなりますが、サッカーを愛する皆さんが、共にプレーし、汗を流し、そして共に笑顔になれる日が少しずつ戻ってきています。

今回の特集では、熊本県サッカー協会の各種別・委員会の委員長から、コロナ禍での活動への影響や今後の活動予定などについてコメントを寄せてもらいましたので紹介します。

県内のサッカーファミリーに安心・安全な環境提供を

一般社団法人 熊本県サッカー協会
専務理事 今田 周作

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、サッカーファミリーの生命・健康の安全が最優先と判断した結果、今年3月から6月までの4カ月間にわたって継続した事業活動の中止・延期措置につきました。当協会関係者をはじめとした県内サッカーファミリーの皆様には、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。

今までに経験したことのない世界規模での感染症の流行は、私たちの日常を大きく変化させ、感染拡大防止の観点からスポーツ界のみならずあらゆる分野で苦渋の決断が下され、今年最大のスポーツイベントであった東京オリンピックはもとより、高校総体、国民体育大会等、数多くのイベント・大会等が中止・延期となりました。こうした感染拡大防止への対応は、感染状況が刻々と変化し、先が見えない中での諸事判断の難しさを教えてくれました。

ポジティブな発想で課題解決
自立した組織へ発展を

今後、県内サッカーファミリーに安心・安全で笑顔あふれるサッカー環境を再構築して提供することこそが、当協会が目指す「日本で有数のサッカー王国になる」ために必要なことだと確信しています。そのためにも、今回のコロナ禍を契機として、熊本県サッカー協会がポジティブな発想により課題解決を進め、持続可能な自立した組織として発展していくことが不可欠です。

With/Afterコロナにおける事業活動においては、「新しい生活様式」を取り入れた活動が求められています。新型コロナウイルスの感染拡大は今も世界中で続いています。今一度、皆が気を引き締めて新しい常識で新しい日常を作っていく必要があります。

用具の貸出を行っています！

熊本県サッカー協会では、所属チームやクラブ、都市協会などへ、マイクロバスやサッカーゴール(少年用)、フットサルゴール、自動体外式除細動器(AED)などの用具貸出を行っています。ご希望の方は、県協会事務局(☎096-247-6980)までお問い合わせください。

※一部使用料・協力金をいただきます。
※貸出用具の一部はtoto助成事業にて購入しています。

貸出用具
の一例

AED(自動体外式除細動器)



移動用マイクロバス(29人乗り)

貸出用具の詳細などは熊本県サッカー協会ホームページでご確認ください

KFA NEWS

熊本県サッカー協会広報紙

広告協賛募集中

熊本県サッカー協会では、熊本のサッカー情報や活動状況をより多くの皆様にお伝えするために、本協会に所属していただいている会員(チーム)向けに機関紙「KFA NEWS」を発行して参りました。

2015年度から、さらなる紙面の充実と親しまれる広報誌にするために「KFA NEWS」のリニューアルを行い、広告協賛を募集しております。

仕 様：タブロイド版・8ページ 横273mm×縦406mm
発行部数：5,000部／1回
配布対象：会員(約600チーム)、公共施設、スポーツ施設、各種イベント

詳細は熊本県サッカー協会ホームページよりご確認ください。

特集 新型コロナウイルス感染拡大を受けて Withコロナに向けた各種別・委員会の今後



技術委員会

各種事業が全てストップした3カ月
再び「育成王国・熊本」を目指して！

技術委員長 甲斐 卓

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、技術委員会では、3月以降予定していた「指導者養成」「トレセン活動」「リフレッシュ研修」「GKプロジェクト」等の各種事業が全てストップしてしまいました。それからの3カ月近くは辛い時間でしたが、下ばかり向いていても仕方ありません。また皆さんと協力し合いながら、レングを一個一個積み上げていくように育成のバトンをつないで行けたらと思っています。「育成王国・熊本」を目指して頑張ります！！

強化委員会

令和3年に向けた強化を開始
3種別揃っての本国体出場を目指す

強化委員長 中村 洋介

5月29日、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、日本スポーツ協会から国体関連業務を中断するように依頼があり、令和2年度国民体育大会第40回九州ブロック大会が中止となり、6月19日には鹿児島国体の延期(今年度開催はなし)が決定しました。

各種別において、監督及びスタッフを決定し、選手選考と強化練習会等強化事業計画を立て、チーム作りをし、戦うつもりでしたが、残念ながら全く実施できませんでした。今後は令和3年度に向けた強化を、早速今年から取り組み、3種別揃っての本国体出場を目指します。

規律・フェアプレー委員会

各種研修の実施も断念
再びピッチで会える日を楽しみに

規律・フェアプレー委員長 中村 修

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い各種大会の中止が余儀なくされ、規律・フェアプレー委員会としても、マッチコミッショナー研修・ウェルフェアオフィサー研修等の実施が全て出来なくなり残念です。今後の新型コロナウイルスの早期収束を心から願うと共に、熊本のサッカーファミリーの方々とは再びピッチでお会いできる日を楽しみに頑張っています。皆様も感染防止対策を十分に、安全な生活をお続けください。

医学委員会

サッカー活動の再開に向けた
KFAガイドライン

医学委員長 中村 英一

新型コロナウイルス感染拡大により中断していたJリーグが、7月によりやく再開されました。一方で、熊本県は豪雨に見舞われ、人的にも経済的にも大きな被害を受けました。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り致します。さて、県サッカー協会では、主催事業の全面再開に向け、「JFAサッカー活動の再開に向けたガイドライン」を基に、当協会技術委員会に「熊本県ガイドライン」を作成してもらい、本委員会も加わって最終チェックを行った後、HPにアップする予定です。さまざまな条件下での活動にはなりますが、サッカーができる喜びを皆で分かち合えるよう、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

チャレンジJ2委員会

スキャンピオ・カップの秋開催に向け
感染状況の収束を願う

チャレンジJ2委員長 高木 太郎

チャレンジJ2委員会の事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、5月末に開催を予定していた「第5回KFAスキャンピオ・カップ」が中止になってしまいました。春と秋の年2回開催を計画している大会なので、この大会に参加することを楽しみに練習に励んでいる県内・九州各地のチームの皆さんのためにも、秋の大会は、ぜひ開催できるような社会状況であることを願っています。

地域委員会

47FA支援事業を活用し
地域力を高めるきっかけに

地域委員長 後藤 義雄

謹んで大雨による災害のお見舞いを申し上げます。この度の県南豪雨により被害を受けられました郡市町協会の皆様方の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。県内では、新型コロナウイルスの感染拡大も少しずつ落ち着いてきたようにも見えますが、全国的には、日々新たな感染者が確認されており、依然として予断を許さない状況にあります。

先日、大津町運動公園球技場において地域委員会を開催し、各郡市町協会から新型コロナウイルス感染症対策や本年度の事業実施状況等について報告。今後は、ガイドラインに沿った新たな生活様式の下で、サッカー競技の普及及び技術向上に努めていかなければならないと確認しました。主催事業の一つである県民体育祭は中止になりましたが、47FA支援事業を活用し、地域力を高めていくチャンスと考えています。皆様方のご協力ご支援をお願いします。

1種社会人

全国、九州大会の開催決定
実施に向け、万全の感染防止対策を

1種社会人委員長 水口 浩介

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、社会、経済、そしてスポーツ活動への多大な影響が続いています。これまで本委員会も大会開催の自粛等を行ってきましたが、先ごろ全国社会人連盟および九州社会人連盟より、「全国、九州大会の開催決定」がなされました。当協会でも、予選会の実施に向けて十分な感染防止対策を講じた上で準備を行い、7月から活動再開に至りました。今後も1種社会人登録チームのご理解とご協力をお願い致します。そして、一刻も早い新型コロナウイルスの終息を祈念致します。

1種学生

7月から徐々に活動を再開
若い力で県サッカーを盛り上げる！

1種学生委員長 村山 浩一

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3月に予定していた「KFA 第4回KUMAMOTO学生フェスティバル」が中止になって以降、1種学生委員会としての活動は休止状態でした。しかし、7月に入ってようやく各大学、高専でも徐々にではありますが活動が再開され、明るい兆しが見えてきました。今年度の残り期間でどの程度の活動ができるか、まだ未知数な部分もありますが、学生たちの若い力で県のサッカー界を盛り上げていければと思います。

2種

総体に代わる集大成の場を用意
リーグ戦も新たな形で実施

2種委員長 重本 浩光

新型コロナウイルス感染拡大防止を受け、高等学校では3月から学校休校措置が取られました。それに伴い、今年度予定していたプレミア、プリンス、FAの各リーグが開催延期となり、さらに全国・九州の高校総体、そして県高校総体の中止が決定し、ユース年代のアスリートたちは日ごろの成果を競う場を失う形になりました。

6月の学校再開と共に、高校3年生の集大成の場をつくるため、県高等学校体育連盟とも協議を重ねた結果、県高校総体は規模を縮小して7月23日、25日に代替大会を開催しました。リーグ戦に関しては、プレミアは移動による感染リスクを考慮し中止に。代わりに、今年度のみ各地域のプリンスに参入する形で新たなリーグ戦の開催を予定しています。こうした大会の実施にあたっては、県高体連から提示されたガイドラインや県サッカー協会2種委員会作成のガイドラインを基に展開していきたいと考えています。

3種

活動を再開した選手たちの笑顔
これからも共にボールを追いかけてい

3種委員長 藤野 博文

2月末、楽しみにしていた県リーグ開幕は延期を余儀なくされ、先の見えない状況に「プレーしたい」と思う選手、「プレーさせたい」と思う保護者・チーム関係者の苦悩が続きました。そんな中、ようやくプレーが再開できた時の選手たちは満面の笑みを浮かべ、私たちはその姿に喜びました。

びを感じました。主要大会は中止となり悔しさもありますが、サッカーの楽しさを追求しながら、選手たちと一緒にボールを追いかけていきたいと思い新たにしています。今後も感染防止対策を心掛け、リーグ戦・各種大会等での選手たちの活躍を期待したいと思います。

4種

9月以降の大会開催に向け
出来る限りの感染予防対策を

4種委員長 御厨 眞

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、4種委員会では熊日学童五輪大会、火の国トレセン大会などを中止しました。しかし、今後は出来る限りの感染予防対策を講じながら、大会の開催を考えていきたいと思っています。9月にU-10少年、11月に全日本U-12選手権、12月にU-11新人戦、1月にU-12県選手権と続く大会を例年通りに開催できることを願っています。今後とも登録チームの皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

女子

感染症の恐ろしさを感じた日々
またサッカーが出来る日を心待ちに

女子委員長 岩崎 珠美

新型コロナウイルス感染により亡くなられた多くの方々に心よりご冥福をお祈り申し上げます。発生当初、町内放送で外出禁止要請が流れたのを知り、恐ろしい思いをしたのを覚えています。その後は、女子委員会の行事も、総会をはじめ全ての大会等が中止になりました。先日、ようやく運営委員会を開催し、皆様にも本年度の協力をお願いすることができました。まだまだ予断を許さない状況下ではありますが、また皆様とサッカーが出来る日を楽しみにしています。

シニア

大好きなサッカー仲間と楽しむために！
今この時期を乗り越えよう！

シニア委員長 堀川 淳

連日、報道される新型コロナウイルス感染拡大。これほどまでに今までの生活が制限されるなど誰が想像したでしょうか。しかし、徐々に新しい生活様式を取り入れながらの活動再開が進められています。当リーグでも試合前の自己管理状況報告、検温の実施、試合後のマスク使用等、基本的な感染防止対策を講じながら、普段の生活にも十分注意し、一人一人の自覚の下に活動を進めています。今は一致団結と我慢の時間を続けるときだと考えています。今の活動を、今年度、どこまで続けられるかわかりませんが、サッカーを愛する仲間と協力しながら、この難局を乗り越えていきたいと思っています。

フットサル

大会中止が相次ぎ見通しが立たず…
まずは一人一人が出来ることを！

フットサル委員長 山口 徹

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、フットサルでも多くの大会が中止になっています。まだまだ先の見通しが立たない状況ではありますが、1日でも早くかつての日常に戻り、多くのフットサルファミリーが心からプレーを楽しめる日が来ることを強く願っています。そのためにも、感染防止・予防を含め、今は私たち一人一人が出来ることを最大限行い、少しずつでも元の生活を取り戻しましょう。

キッズ

Withコロナの中でも
子ども達の笑顔を見るために

キッズ委員長 武田 昭二

キッズ委員会は、幼稚園・保育園等へ出向いての巡回指導や初心者を対象としたキッズサッカーフェスティバル、さらに、「もっとサッカーをやってみよう」という子ども達を対象としたキッズサッカー交流会など、各種事業に取り組んでいます。withコロナの中でも、「子ども達の笑顔あふれる姿」を少しでもたくさん見られるよう、スタッフ一同取り組んで参ります。イベント等の案内は県協会ホームページに掲載しますので、多くのご参加をお待ちしています。



日本サッカー協会

田嶋 幸三会長

ステイトメント

目に見えないウイルスとの戦い。サッカーファミリーと心を一つに再び笑顔でサッカーを楽しめる日を！

はじめに、この度の新型コロナウイルスの感染に伴い、多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。多くの方がお亡くなりになり、また、現在も闘病中の方が多くいらっしゃる中で、本日(※4月2日)退院することができ、医師、看護師、病院関係者の皆様、ご心配、応援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

(中略)

現在の状況は、オリンピックやワールドカップのようなサッカー界の中で他国を相手にした戦いではなく、目に見えないウイルスという敵に対して日本や世界中の皆さんと一致団結して戦っていかねばならない時だと考えています。ピッチ内のサッカーそのものの大きな影響はもちろん、財政的な危機に直面することを避けられないと思います。評議員会において、登録料の免除や協会納付金の停止、JFA自ら身を切る事を検討するとお伝えしました。新型コロナウイルスの猛威による過去に例のない影響や被害を考えると、JFAも思い切った決断をしていく必要があります。

(中略)

JFAは、感染拡大防止、役員や全ての関係者の健康を守るために2月27日に役員員の在宅勤務を開始しました。早い時期に導入を決断したこともあり、私が感染した後も、辛いなことにこれまでのところ新たな感染者の発生を防ぐことができています。

(中略)

私が感染したことによって、サッカー界には危機感と緊張感が伝わり、多くの方々が感染予防に真剣に取り組んでくれていると思います。今は新型コロナウイルスの感染拡大を取り束させることを最優先に、そして、人々の健康や生命を守ることを最優先にすること、それが結果的に通常の生活を取り戻し、経済活動を再開していくことになると思います。

(中略)

入院中、医師や看護師をはじめとする全ての医療関係者の献身的で科学的根拠に基づいたプロフェッショナルな仕事に感銘を受けました。頭の下がる思いです。ところが、一方で、医療従事者やその関係者に対する偏見が起きていることも耳にしま

す。防護服や医療機器の供給についても多くの人が懸命に取り組んでいると聞いています。新型コロナウイルス感染症の治療と拡大防止に全力を注いでいる多くの関係者の皆様を疲弊させたり、偏見や差別につながる言動、医療崩壊につながる行為をなくさなければいけないと思います。

また、私も経験しましたが、組織を守ることも、批判を気にするあまり、情報発信の際、患者、そしてその関係者のことを忘れてしまうことが起こりがちです。それが偏見や差別に繋がるということも忘れてはなりません。サッカー界も人々に優しい組織でありたいと、あらためて強く感じています。いろいろな意見や批判がある中で、これまで医療崩壊を防ぎながらさまざまな対策を実行してきた多くの関係者、政府の皆様、医療関係者の皆様にあらためて感謝を申し上げます。

(中略)

2023年のFIFA女子ワールドカップ招致(※6月22日に招致活動からの撤退を発表のために3月上旬に訪れたイギリスやオランダ、アメリカは、現在とは全く異なる感染防止策を行っていました。招致のライバル国であるオーストラリア／ニュージーランドやコロンビア、ブラジルなども招致活動を行っていましたが、わずか1カ月で全く違う街になっています。多くの方々の協力で感染拡大を抑止し、医療崩壊を防いでいる日本という国の底力をあらためて感じています。

(中略)

我々の責務は、再び日本中で老若男女が笑顔で安心して安全にサッカーを楽しむようにすることです。JFA、9地域サッカー協会、47都道府県サッカー協会、各リーグ、各連盟他、全ての関係する団体の皆様やサッカーファミリー、ファン・サポーターの皆様と心を一つにして、覚悟を持って取り組んでまいります。JFAの会長として、未来を予測して決断し、前に進むために全力で実行してまいります。

2020年4月2日
公益財団法人日本サッカー協会会長
田嶋 幸三



熊本県キッズプロジェクト 連携スタート!



県サッカーのさらなる発展と普及・基盤強化を共通の目的に、ロアッソ熊本と熊本県サッカー協会が、キッズ年代における事業連携「熊本キッズプロジェクト」を始動させました。事業内容と共に、ロアッソ熊本の永田求代表理事と当協会会長の前川隆道の対談を通じて、キッズ年代への普及とサッカーファミリーの底辺拡大に懸ける両団体の意気込みを紹介します。

熊本県キッズプロジェクト(キッズ年代事業連携)一覧

1

キッズキャラバン (ロアッソホームタウン活動) 巡回指導 (JFA/県協会グラスルーツ事業)

これまで未就学児(一部小学4年生以下)を対象にした訪問型スポーツ事業について、指導者間の連携、プログラム内容、広報での連携を図り、県下全域での事業展開を目指します。

2

JFAフェスティバル (県協会主催・主管事業) キッズサッカー交流会 (県協会主催事業)

- 「JFA キッズサッカーフェスティバルin 熊本(未就学児～10歳以下)」をロアッソ熊本(J3)ホームゲーム開催日程に合わせて開催。
- 「JFA ユニクロサッカーキッズin 熊本(6歳以下)」にロアッソ熊本から指導者を派遣。
- 「キッズサッカー交流会(未就学児～10歳以下)」でロアッソコースを開催。

3

キッズ年代エリートプログラム (県協会主催事業)

「キッズエリートプロジェクト(定期活動/月1回・合宿/年2回)」にロアッソ熊本から運営協力として指導者を派遣。

4

キッズリーダー養成講習会 (県協会主催事業)

ロアッソ熊本からキッズリーダーインストラクターを有する指導者を派遣。



県内のキッズ年代への普及の輪を広げるために行うロアッソ熊本と熊本県サッカー協会による事業連携。具体的な連携内容としては、①指導者の派遣・協力 ②広報の連携 ③プログラム内容での連携の3つが挙げられます。

まず、①では両者が行うキッズキャラバンやフェスティバル等のイベントや指導者養成講座などの各事業に、ロアッソ熊本から指導者を派遣します。これによって、これまで以上に指導者の充実と子ども達がサッカーと出会う機会の創出を図ります。また、②では両者のHPや広報紙等、さまざまな媒体を使って広報を行い、より多くの県民に活動を知ってもらいます。さらに、③では両者が持つ指導方法や内容について共有し、提供プログラムの一層の充実を図ることで、誰もが楽しめる内容や最新の指導方法の提供を目指します。

熊本の全てのキッズたちに サッカーを楽しめる場を!

技術・指導の“プロの質”で 熊本をサッカー王国に

対談

永田 求 × 前川 隆道

一般社団法人 ロアッソ熊本スポーツクラブ 代表理事

一般社団法人 熊本県サッカー協会 会長

キッズプロジェクトをきっかけに さらなる連携を



「子ども達へのサッカーの普及、育成、強化を考える時、地元Jリーグのチームがあることの意義は大きい?」

永田 ロアッソ熊本は、熊本で最初に出来たプロスポーツチームということもあり、さまざまなスポンサー企業だけでなく、県内の市町村からも大きな支援をいただいています。ですから、チーム内にも「県民の皆様がチーム」という思いが常にあります。それだけに、子ども達にとって目標となるようなチームであることが重要だと考えています。細かいことですが、選手達の身だしなみや挨拶などの立ち居振舞い一つ取っても、「子ども達の手本になるように」という意識を持ってやっていく必要があります。

「今回の「熊本県キッズプロジェクト」(キッズ年代事業連携)に対して、ロアッソ熊本として期待することは。」

前川 県サッカー協会の活動の幅と底辺の広さ、そして組織的基盤が強固な点です。それに加えて、若年層への普及・強化という、両者の目指すものや方向性がほぼ同じという部分も心強く感じています。現在、ロアッソ熊本では熊本市以外にも、阿蘇、人吉にジュニアユースチームを設立しています。これは、子ども達を教える指導者や受け皿となるチームが不足している地域への支援の意味合いもあり、お互いの足りない部分を補い合えるので、サッカーの技術だけでなく人間力の面でもお手本となるべくプロチームがあることは重要です。

「県サッカー協会としても、今回の事業連携への期待は大きい?」

前川 もちろんです。少子化で子ども達の数は減っていますが、「サッカーが好き」という子は減ってないと思います。問題は、そうした子ども達の受け皿づくりやサポート。これまでは、それが「学校(部活動)」でしたが、今後はそれが難しくなります。そうした中で、地元のJチームの選手やスタッフが来て教えてくれれば、これほど嬉しいことはないと思います。それによって、将来的に「Jリーガーになりたい」「ロアッソ熊本でプレーしたい」という子が一人でも多く出てくれれば、それが結果的に、「熊本県を全国でも有数のサッカー王国にする」という協会の目標の達成にも繋がっていくと思います。

「子ども達へのサッカーの普及、育成、強化を考える時、地元Jリーグのチームがあることの意義は大きい?」

永田 今回のキッズ年代の事業連携をきっかけに、今後ロアッソ熊本と県サッカー協会と一緒にやれることが増えれば、県のサッカー界の活性化にも繋がると思います。その意味でも今回、(キッズ年代の事業連携という)貴重な機会をいただき感謝申し上げます。

「子ども達へのサッカーの普及、育成、強化を考える時、地元Jリーグのチームがあることの意義は大きい?」

前川 当協会としては、やはりロアッソ熊本の持つプロの選手・指導者の質を積極的に活用し、協会事業の拡大・発展を図っていきたくと考えています。キッズ年代の事業連携だけでなく、協会主催の指導者養成講習会などの各種研修会にも派遣を依頼し、互いに高め合っていければと思います。

「子ども達へのサッカーの普及、育成、強化を考える時、地元Jリーグのチームがあることの意義は大きい?」

※敬称略
※文中の「ロアッソ熊本」は、プロサッカークラブ「ロアッソ熊本」のアカデミー事業を担う「一般社団法人ロアッソ熊本スポーツクラブ」を指します。



一級審判員座談会

間近で選手のプレーに接する魅力的な立場。
常に自分と向き合い、
失敗しても次にチャレンジする姿勢を。「審判員の重要性を感じたことが、
上級を目指すきっかけに」 〈宮原〉―審判員を始めたきっかけと、
1級取得までの経緯を教えてください。

村上 高校卒業後にOBチームに入り、帯同審判を始めたのが最初です。2級取得時点で私が一番若く、上の世代は年齢が6歳ほど離れていたもので、当時の山城(大)審判委員長から「1級を目指さないか」と勧められました。今思えば「うまく乗せられたな」という感じがしますが(笑)。

―審判員を始めたきっかけと、
1級取得までの経緯を教えてください。

宮原 大学卒業後に高校の外部コーチになり、帯同審判が必要になって始めたのがきっかけです。1999年の熊本国体を控えて2級まで取得していた時に、村上さんと前審判委員長の相葉忠臣先生が1級を取られ、「その次の世代から誰か(1級を)」として候補に挙げてくださいました。

―上級審判員を目指していたわけではありませんでした。高校最後の大会で審判員の重要性を感じたことが、上級を目指すきっかけになりました。その後、前委員長の相葉さんから「本気で1級を目指すなら、九州の強化対象に推薦する」と言っていたのが大きかったですね。

―1級取得までに苦労したことは？

村上 私が受験した当時は、九州で年に3人しか認定試験を受けられず、その3人枠に入ったのが選考を受け始めてから4年目でした。担当の試合は、当時交際していた妻に録画してもらっていました。文句も言わずついて来てくれて感謝しています。

上田 私は3回目で合格しましたが、2回落ちた時には「このまま続けていて本当に受かるのかな」という心配の方が大きかったですね。もう一度、気持ちを高めなければいけない苦しさがありました。

作本 私が(1級取得まで)一番長くかかり、受験回数も多いんです。その間に「九州で3人が受験」という仕組みから、各地域で1級を誕生させるという

サッカーにおいて、スムーズなゲームを運営する上で大きな役割を担うのが審判員です。中でも、全国レベルの大会で主審を担当できる1級審判員は、日本国内に約200名。熊本県では昨年まで4人が1級で活躍していましたが、2人が勇退したことで現在、2名となりました。OBとなったお二人も交え、審判員を始めたきっかけややりがい、上級資格を取得するために必要な心構えなどについて聞きました。



作本 貴典さん

1971年5月10日生まれ。松橋町(現宇城市)出身。小中高校・大学まで、プレーヤーとしても全国大会に出場。2008年に1級取得後、2011年よりJリーグ担当となり、J1、J2のリーグ戦、カップ戦など224試合で副審、追加副審を務めた。2019年4月から県サッカー協会審判委員会副委員長と強化育成部長を兼任。同年をもって1級を勇退。

制度が変わったんですが、なんと合格できました。上田くん同様、次の受験までのモチベーションを保つのが大変でしたが、支えてくださる皆さんがいたので頑張れました。

宮原 私は1回目のチャレンジで合格できて運が良かったと思います。ただ、ミスを犯すとまたゼロからのスタートだというプレッシャーは強かったですね。

「審判をしても『いいプレー』を見る楽しさが魅力」
〈作本〉

―審判員のやりがいや魅力は何でしょうか？

作本 やっぱサッカーが好きで、小さい頃から選手としても関わってきたので、審判をしていても「いいプレー」を見る楽しさがありますね。

宮原 私も同じです。ゴールの瞬間を間近で見られて、選手たちの感情に共感できる。そ

れと、たくさん仲間ができたことです。審判活動を通して磨かれたリーダーシップや発言力は、職場でも生きていると思います。

上田 やはり、選手のプレーを間近で見られること。さらに、試合が終わった時の選手の笑顔や観客の感情に立ち会えるのも幸せだと思います。



一級審判員座談会



上田 隆生さん

1983年9月24日生まれ。菊陽町出身。高校卒業後に審判活動を始め、2014年12月に1級資格を取得。翌年から国体、全国高校選手権大会、JFL(日本フットボールリーグ)などで主審を務め、2019年からJリーグ担当となる。昨年はJ3で主審14試合、副審10試合を務めた。

「選手としてもプレーしながら、いろんな経験を審判活動にも生かして欲しい」〈上田〉

―これまで担当した中で印象に残っているゲームは？
村上 2006年に、アビスパ福岡が勝たなければJ2降格になるという入替戦で副審を担当しました。福岡の勝ち越しゴールをオフサイドと判定したら、観客席から「村上！今日は帰れると思うなよ！」という怒声が聞こえてきました。実際にはサポーターに取り囲まれることもなく、無事に帰ることができました(笑)。

最終節、浦和レッズ対セレッソ大阪の試合です。優勝に絡む試合ではありませんでしたが、サポーターで真っ赤に染まった埼玉スタジアムのスタンドを見た時は鳥肌が立ちましたね。
上田 私は1級認定の3次試験の2回目の実技で担当した、九州大学リーグの試合です。熊本から関係者だけでなく親も見に来ていて、「頑張らなきゃ」と思ったことを覚えています。
宮原 1級になって初めて担当した今年の全国高校選手権です。高校時代はピッチに立つことができなかったのですが、独特の雰囲気の中で笛を吹けたことが印象深い。もう一つが、2級時代に担当した東北でのインターハイ。アディショナルタイム表示で行き違いがあり、一旦終えた試合をドロップボールで再開し、「珍事」としてネットニュースになりました。1級を目指すきっかけにもなった試合ですが、その経験は今でも教訓になっています。

―ユース審判員について思うことは。

宮原 私が高校生の頃にはなかった制度で、研修の場として大きな舞台が用意されていることを羨ましく思います。

作本 高校生の頃には進んで審判をやることなど考えていませんでしたから、(ユース審判員にはその志をずっと持ち続けてもらって、選手としてもサッカーを楽しんで欲しいですね)。

上田 審判だけに打ち込むより、選手としてもプレーしながら、その中で得た経験を審判活動にも生かして欲しいと思います。

村上 高校生対象のレフリーアカデミーには、毎年5、6人が参加してくれますが、最初に必ず「選手としてもプレーしてください」と話します。選手であっても審判であっても、サッカーは楽しいものだと感じて欲しい。熊本では、ユース審判員として4級資格を取る高校生が年間1000人ほどいますが、多くは副審しか担当していません。リーグ戦で副審をするためだけに4級を取るのではなく、主審もやってもらいたい。高校の大会でも練習試合でも、「主審をしたい」という生徒には、ぜひやらせてあげてほしい。審判委員長の立場として、2種の先生たちに強く訴えていきたいと考えています。

―上級審判員を目指す上で必要な姿勢や心構えは？

作本 自分自身を見つめること。例えミスを犯しても取り繕わず、自分と向き合い、どう

改善すればいいかを考えて、次にチャレンジする。そういう姿勢で一步ずつ進むことが大切です。
宮原 審判員としてだけでなく、人間として選手と信頼関係を築けるかも重要。加えて、試合に向けた準備やトレーニング、体のケアなども含めて、自分をコントロールする力が必要だと思います。

とも大事ですね。
村上 試合を担当する時は、先輩のインストラクターが付いて指導してくれますが、その意見を100%聞かないことも大事。指導者にもそれぞれのサッカー観があり、全部を聞き入れてしまうと「自分はどんなジャッジをしたのか？」が見えなくなってしまう。全て聞き入れるのではなく、何が足りないのかを客観的に見たい。上での必要なことを選択し、自分のものにしていければいいと思います。



今回の座談会に参加した4人が同じピッチに立った2019年の第98回全国高校サッカー選手権熊本県大会決勝の様子

「級に関係なく、どの試合でも100%の力を出して欲しい」〈村上〉

―最後に、県内の現役審判員の皆さんにひと言お願いします。

宮原 先輩方にはいつも支えていただき、感謝しかありません。審判をやっている、100点満点の正解はない。だからこそ、いろんな視点からサッカーを見ていくことが大事だと思っています。

上田 JFAの割り当てがあるため、私たち1級審判員はなかなか県内の試合を担当できませんが、その分、県内では2級の方たちが主役。県サッカーのレベルアップのために、2級・3級の皆さんの力が必要です。一緒に盛り上げていけたらと思います。

―最後に、県内の現役審判員の皆さんにひと言お願いします。
村上 何級であるかに関係なく、どの年代の試合でも、帯同審判でも協会の割り当てでも、担当する試合に100%の力を出してもらいたい。そうすれば、選手からも観客からも、「しっかり走って、見てくれてる」という信頼につながり、審判員の価値向上に繋がります。反対に、手を抜けば必ず分かります。だからこそどんなカテゴリの試合でも100%の力を出し切ることが大事だと思います。



村上 孝治さん

1969年11月23日生まれ。宮原町(現氷川町)出身。九州学院高校卒業後、OBチームで審判活動を開始。1998年に1級資格を取得し、1999年からJリーグを担当。J1、J2のリーグ戦、カップ戦など合わせて412試合で副審を務めたほか、熊本県内外のアマチュア大会でも数多くのゲームを担当。2019年4月から県サッカー協会審判委員長。今年3月、1級審判を勇退。



2020年度定時総会を開催～コロナ禍の中、異例の方式で～



約40名が参加して行われた2020年度の定時総会。全員マスク着用、席の間隔確保など、コロナ対策を行って開催



協会役員は別室に待機し、総会会場とオンラインで結んでの“リモート総会”となりました

熊本県サッカー協会・2020年度事業計画の具体的取り組み

(一部抜粋)

復興

2022年4月オープンを目指す「フットボールセンター」の実現

2022年4月オープンを目指す「熊本県フットボールセンター(仮称)」の建設に関して、自治体と連携して取り組みをさらに促進する

普及

安心安全な環境の提供と人間力の育成

- ① 安心安全な環境の提供と人間力育成のためにリスペクトを推進する
- ② 医科学的予防や暑熱対策等の取り組み
- ③ マッチコミッショナーとウェルフェアオフィサーの育成、公式大会における設置
- ④ 育成年代クラブの健全性向上への取り組み

強化

2022年国体少年女子U-16創設に伴う3種・4種年代の育成と強化

少年男子のトレセン活動をモデルにして、女子トレセン活動を充実し、国体少年女子創設時から本国体の継続的出場を目指す

基盤

社会貢献活動の充実

- ① 他のスポーツ団体との連携協調を進める
- ② ロアッソ熊本の運営等支援を推進する

6月7日、一般社団法人熊本県サッカー協会の2020年度定時総会を、嘉島町民会館2階・大会議室で開催しました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、会場内での出席者同士のソーシャルディスタンス確保、前川会長ら役員は別室からリモートにて参加など、さまざまな対策を施して開催の運びとなりました。

現在、県サッカー協会の総正会員数は620名です。それに対して、この日総会に出席した正会員数は42名。また、委任状による出席が458名で合計500名となり、定款第27条に定める定足数を満たしたため総会が成立しました。

河田信之副会長の開会挨拶で始まった総会は、長洲町サッカー協会の松本昇会長を議長に選出して議事進行に入りました。まず、今田専務理事から2019年度事業報告、2019年度収支決算報告並びに監査報告、常勤役員報酬の月額支給基準総額の3つの議案が出され、それぞれ満場一致で原案の通り承認されました。このうち2019年度の事業報告では、2020年2月中旬以降、新型コロナウイルス感染拡大により、当初計画の主催事業の中止・延期が相次ぎ、事業活動に大きな影響が出たことや、熊本県フットボールセンター(仮称)建設に向け、施設を運営するための特定目的会社(SPC)を協会の子会社として設立したことなどが報告されました。

引き続き今田専務理事によつて2020年度事業計画および収支予算と、2019年度公益目的支出計画実施報告並びに監査報告が行われました。新年度の事業報告では、2019年度の中期事業計画で示された「熊本県を全国で有数のサッカー王国に育てる」「フットボールセンター建設」という会長指針の実現に向けて、引き続き「復興」「普及」「強化」「基盤」の4部門で具体的な取り組みを行っていくことを確認しました。

この日は、前川隆道会長の挨拶で、「コロナ禍の中でも熊本県サッカーを後退させるわけにはいかない」という力強い発言があり、出席した県サッカー関係者らも、2020年度の活動に向けて決意を新たにしていました。



2019年度事業報告並びに2020年度事業計画について発表・報告を行った今田専務理事

熊本県を全国有数のサッカー王国に育てるため 2020年度もさまざまな事業を展開

2020年度KFA地域委員会議および47FA支援事業講習会



前川会長、河田副会長ら、協会役員も出席して行われた地域委員会議



前夜の豪雨被害で出席できない地域もあったものの無事開催され、多くの意見が寄せられた



7月5日、大津町運動公園球技場・会議室で2020年度の地域委員会議が行われました。会議の前夜には、芦北・津奈木、人吉・球磨など県南地域を豪雨が襲い甚大な被害が発生。当日も、道路事情や災害復旧優先のため出席できない地域もありましたが、前川隆道会長、河田信之副会長なども出席の下開催されました。

会議では、前川会長の挨拶に続き、出席した各郡市協会から自己紹介を兼ね、新型コロナウイルス感染拡大による活動への影響や現状などが報告されました。各地域とも自粛期間を経て、ようやく活動再開に向けて動き出しているものの、ガイドラインに沿った感染予防対策はもちろん、今後予想される大会過密によるグラウンド確保の難しさなど、さまざまな課題を抱えており、他地域の取り組みなどを熱心に聞き入っていました。

その後、6月に開催された県サッカー協会定時総会についてや、今年度中止になった県民体育祭の次年度以降の開催地の変更などが報告されました。加えて、今後のサッカー人口減少の一因になるとの懸念のある小学校運動部活動の社会体育移行後の現状や県サッカー協会のホームページを積極的に活用した地域委員会活動の発信などについても報告がありました。

また、47FA支援事業講習会では、各地域で開催する教室・講習会、大会・フェスティバルなどに対して助成される事業内容について説明があり、積極的な活用が促されました。地域委員会では、同事業をチャンスと捉え、子ども達のサッカー環境整備に取り組む方向性を提示。それを受け、出席した各地域委員からも申請可能な事業の回数や上限などについて多数質問が出るなど、有意義な会議となりました。

進む小学校運動部活動の社会体育への移行 地域での受け皿確保に地域協会の役割重要に

Result

各カテゴリー大会結果報告

県サッカー協会の各カテゴリーの試合結果をお知らせします。

県内大会・県予選

〈1種 社会人〉

第24回熊本県サッカー選手権大会

日程：2020/8/9、23、26
会場：県民総合運動公園陸上競技場 他
結果：優 勝／熊本県教員蹴友団
準優勝／熊本学園大学

〈2 種〉

令和元年度 県下高校サッカー大会

日程：2020/1/11～2/1
会場：県民総合運動公園陸上競技場 他
結果：(男子)
優 勝／大津高校
準優勝／秀岳館高校
第3位／東海大学付属熊本星翔高校
(女子)
優 勝／秀岳館高校
準優勝／東海大学付属熊本星翔高校
第3位／慶誠高校

〈3 種〉

2019年度 KFA第14回 熊本県クラブユース(U-13) サッカー選手権大会

会場：県民総合運動公園スポーツ広場 他
結果：優 勝／ロアッソ熊本
準優勝／ソレッソ熊本
第3位／人吉FA

2019年度 KFA第29回 熊本県クラブユース(U-14) サッカー選手権大会

日程：2019/12/15～2020/1/13
会場：嘉島総合運動公園多目的競技場 他

令和元年度 第48回熊本県教員蹴友会会長旗争奪 KFA熊本県中学校U-14サッカー大会

日程：2020/1/25～2/1
会場：宇城市小川町観音山運動公園グラウンド 他
結果：優 勝／ルーテル学院中
準優勝／八代市立第三中
第3位／熊本市立詫麻中、宇城市立小川中

〈4 種〉

JFA 第43回全日本U-12サッカー選手権大会 熊本県大会

日程：2019/10/27～11/23
会場：熊本県民総合運動公園 他
結果：優 勝／ロアッソ熊本ジュニア
準優勝／ソレッソ熊本U-12V部
第3位／アルバランシア熊本FC
UKI-C.FC U-12

第41回熊本県少年サッカー新人大会(田嶋杯) U-11 熊本県大会

日程：2019/11/30～12/21
会場：えがお健康スタジアム 他
結果：優 勝／ソレッソ熊本U-12V
準優勝／ロアッソ熊本ジュニア
第3位／FC Ants

KFA 第51回熊本県少年サッカー選手権大会(大谷杯) 第51回九州少年サッカー大会熊本県代表決定戦

日程：2020/1/19～2/9
会場：えがお健康スタジアム 他
結果：優 勝／ブレイズ熊本ジュニア
準優勝／アルバランシア熊本FC
第3位／ロアッソ熊本ジュニア、太陽SC熊本 U-12

〈女 子〉

KFA 第27回熊本県女子(U-12)さわやかサッカー大会

日程：2020/2/16
会場：益城町総合運動公園
結果：優 勝／益城ルネサンス熊本FCジュニア
準優勝／MELSA熊本FCボニータ
第3位／ほくぶ総合ヴェルストレーラ

JFA レディースサッカーフェスティバル2019 IN くまもと

日程：2020/1/26
会場：大津町運動公園多目的広場
結果：優 勝／ENJOYの部) 熊本北
ATHLETEの部) SPEC

〈フットサル〉

JFA 第25回 全日本フットサル選手権 熊本県大会

日程：2019/10/14～26
会場：大矢野総合体育館
結果：優 勝／EGOISTA
準優勝／エンフレンテ熊本フットサルクラブ

Super sports XEBIO KFA 第23回 熊本県フットサルリーグ

日程：2019/6～2020/3
会場：大矢野総合体育館 他
結果：優 勝／エンフレンテ熊本フットサルクラブ
準優勝／エスペランサ熊本
第3位／BTT

九州大会

〈1種 学生〉

KYFA 第26回九州高等専門学校(U-19)サッカー大会

日程：2019/12/21・22
会場：グリーンピア八女(福岡)
結果：優 勝／鹿児島高専(鹿児島)
(熊本高専熊本キャンパス：第7位、
熊本高専八代キャンパス：第6位)



〈女 子〉

KYFA 第31回九州O-30女子サッカー大会

日程：2019/11/30～12/1
会場：宮崎県総合運動公園サッカー場・補助球技場
結果：優 勝／沖縄県レディース(沖縄)
準優勝／サガンウェーブ(佐賀)
第3位／益城ルネサンス熊本FC

KYFA 第17回九州女子サッカーリーグチャレンジカップ

日程：2020/1/11～1/12
会場：鹿児島県立サッカー・ラグビー場
結果：優 勝／福岡大学サッカー部女子AVANCE
(益城ルネサンス熊本FC：1回戦敗退)

キヤノン ガールズ・エイト 第17回JFA九州ガールズ・エイト(U-12)サッカー大会

日程：2020/1/12～13
会場：西鞍の丘総合運動公園(福岡)
結果：トーナメント2組：4位 熊本県女子トレセンU12A
トーナメント3組：2位 熊本県女子トレセンU12B

〈シニア〉

KYFA 第5回九州O-70サッカー大会

日程：2020/7/19
会場：中津市永添運動公園天然芝グラウンド(大分)
結果：優 勝／熊本オールドキッカーズ
準優勝／宮崎ドリームFC

KYFA 第19回九州O-60サッカー大会

日程：2020/7/18～19
会場：中津市永添運動公園天然芝グラウンド(大分)
結果：優 勝／熊本シニアFC
準優勝／福岡飛び梅シニア

〈フットサル〉

日本トリムPresents 第12回全日本女子選抜フットサル大会九州大会

日程：2020/1/25～26
会場：鹿児島市郡山体育館
結果：優 勝／佐賀県選抜
準優勝／熊本県選抜

KYFA 第14回九州各県フットサルリーグ決勝大会

日程：2020/2/8～9
会場：那覇市民体育館(沖縄)
結果：優 勝／FUTSAL CLUB SHUKO(福岡)
準優勝／長崎大学フットサル部FORZA(長崎)
第3位／エンフレンテ熊本フットサルクラブ
Azul都城FC(宮崎)



九州社会人リーグで奮闘中！ 県代表として全日本選手権にも出場



熊本県教員蹴友団

- 設立／1937(昭和12)年
- 監督／青木 太
- 選手数／28名

集合写真撮影も、生徒たちの見本となるようソーシャルディスタンスに配慮しての整列



- 1.熊本工業高校との練習試合の様子。技術の高さを見せて貴族の勝利を収めました
- 2.2016年に念願の九州社会人リーグに復帰。県外への遠征もあるため、仕事との両立が大変です
- 3.県内の高校から教員養成課程のある大学へ進み、教員となってチームに加入するケースが多い

■チーム沿革

1923(大正12)年	前身の熊本第二師範学校サッカー部が発足
1937(昭和12)年	熊本県教員蹴友団として正式に創部
1977(昭和52)年	第5回九州社会人サッカーリーグ優勝
2009(平成21)年	第45回熊本県社会人選手権優勝 第44回熊本県サッカーリーグ1部優勝
2010(平成22)年	第46回熊本県社会人選手権優勝(2連覇) 第45回熊本県サッカーリーグ1部優勝(2連覇)
2011(平成23)年	第47回熊本県社会人選手権優勝(3連覇) 第91回全日本サッカー選手権大会出場(熊本県代表) 第46回熊本県サッカーリーグ1部優勝(3連覇)
2012(平成24)年	熊本県チャンピオンシップ大会優勝 第48回熊本県社会人選手権優勝(4連覇) 第49回熊本県社会人選手権優勝(5連覇)
2013(平成25)年	第39回熊本県総合選手権優勝 第50回熊本県社会人選手権優勝(6連覇)
2014(平成26)年	第94回全日本サッカー選手権大会出場(熊本県代表) 第49回熊本県サッカーリーグ1部優勝 第22回全国クラブチームサッカー選手権熊本県予選優勝 第50回熊本県サッカーリーグ1部優勝(2連覇)
2015(平成27)年	第44回九州社会人サッカーリーグに9年ぶりに復帰、6位 第97回全日本サッカー選手権大会出場(熊本県代表)
2016(平成28)年	第47回九州サッカーリーグ4位(2年連続)
2017(平成29)年	第55回全国社会人サッカー選手権大会に31年ぶりに出場
2019(令和元)年	第100回全日本サッカー選手権大会出場(熊本県代表)
2020(令和2)年	

正式創部は1937(昭和12)年ですが、指揮を執る青木太監督によれば、熊本第二師範学校サッカー部(前身となるチーム)が活動を始めたのは1923(大正12)年と、県内で最も長い歴史を持つチームと言えます。

「教員団」の名の通り、28名の登録選手のうちほとんどが県内の小中高校などに勤務する先生たち。それぞれが勤務先でもサッカー部の顧問として指導にあたっていることもあり、週末に行われる公式戦や、週2回の練習で全員が揃うことは稀です。そうした多忙な教員生活の中でも、仕事との両立を図りながらサッカーに打ち込んでいます。

復帰後5シーズン目となった2020年度の「第48回九州社会人サッカーリーグ」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響

で、3試合を戦ったのみで終了となりましたが、100回記念大会となった全日本サッカー選手権大会(天皇杯)には熊本県代表として3年ぶり4回目の出場を果たし、1回戦では福岡大学と対戦。0-0でPK戦までもつれ込む熱戦を展開しましたが、PK1-3で惜しくも敗れました。

「みんなが本気で取り組めるのも、職場の同僚の先生方の理解があってこそ。教員が真剣にサッカーと向き合い、県を代表して九州リーグで戦っていることをより多くの県民の方にも知ってもらいたい。そのためには、全国大会で1勝を上げることが大きな目標です」と青木監督。

3年後に迎えるチーム誕生100周年に向け、先生たちの挑戦はまだ続きます。



自らプレーするからこそ、 細やかな指導が可能 上園 拓也さん

仕事とサッカー、どちらにも一生懸命に取り組む、両立させているのがこのチームの魅力です。サッカー以外の横のつながりは教師の仕事にも活かれますし、プレーヤー目線で子どもたちの指導に当たれるのもメリットだと思います。

Player's Comments



「入りたい」と感じてもらえる チームに 大塚 寛史さん

それぞれ仕事も忙しい中、九州リーグの舞台で1つでも多く勝つために一人一人が役割を果たしています。高いレベルで結果を出すことで、若い世代の選手たちに「あのチームでプレーしたい」と感じてもらえるチームにしていきたいと思っています。

トレメシ Vol.12 アスリートのための「トレーニング食(めし)」、レシピ

このコーナーでは、サッカープレーヤーをはじめ、アスリートのパフォーマンス向上に欠かせない栄養たっぷりのレシピを紹介します。ぜひお試しください！



新型コロナウイルスの感染拡大で、改めてその大切さが叫ばれているのが「免疫力」。今回登場する食材の中には、豚肉、しょうが、しめじ(きのこ類)、玄米など、免疫力アップに欠かせないものがたくさん含まれています。しっかりと免疫力を高めて、ウイルスにもスポーツの疲労にも負けない体を作りましょう！

渡邊 まみさん／食育料理研究家、アスリートフードマイスター

熊本を拠点に大分でも料理教室の講師として活躍する傍ら、熊本県民テレビ「てれびタ」にも出演中。現在、大学生の長男はサッカーをしているため、アスリートの食事にも精通。Instagram(mamipan358)で情報発信中。

recipe 1 豚ヒレ肉のジンジャーソース



- 材料(2人分)
- 豚ヒレ肉250g
 - 塩こうじ25g
 - ブラックペッパー適量
- 〈ジンジャーソース〉
- 醤油大さじ1・1/2
 - 酒大さじ1/2
 - 玉ねぎ(すりおろし)1/8個
 - しょうが(すりおろし)大さじ1/2
 - にんにく(すりおろし)小さじ1/2
 - きび砂糖小さじ1/2

【作り方】

- ① 豚ヒレ肉を食べやすい大きさに切り、塩こうじに浸けておく。
- ② ボールにジンジャーソースの材料を入れて混ぜ合わせる。
- ③ フライパンを中火で熱して、①の豚ヒレ肉を入れて両面をしっかりと焼く。肉に火が通ったら②を入れてからめて出来上がり！

豚肉を塩こうじに浸けておくと、塩こうじに含まれる酵素の働きで肉が柔らかくなり、ジューシーな仕上がりに！

recipe 2 ミネストローネ



- 材料(2人分)
- トマト1個半
 - にんじん1/4本
 - 玉ねぎ1/4個
 - じゃがいも大1/2個
 - キャベツ1/8玉
 - しめじ1/4パック
 - ベーコン2枚
 - 塩こうじ大さじ1~2
 - 水2カップ
 - ブラックペッパー適量
 - パセリ適量
 - 玄米パスタ1袋

【作り方】

- ① それぞれの材料を食べやすい大きさに切る。
- ② 鍋に塩こうじ、ブラックペッパー、パセリ以外の全ての材料を入れ、中火で20分ほど煮込む(材料を鍋に入れる時、パスタと一緒に短くカットして入れる)。
- ③ 塩こうじとブラックペッパーで味を調え、器に入れてパセリをかけたら出来上がり。

副菜や汁物のイメージがあるミネストローネですが、パスタと一緒に入れることで立派な食卓の「主役」に！



「KFA NEWS」は、 ここで手に入れよう！

「KFA NEWS」は、サッカー協会員以外の一般の方でも手にいれることができます。事務局にお越しいただくか、下記URLからダウンロードできます。

<http://kumamoto-fa.net/about/news/>



右記QRコードからも
アクセスできます➡



編／集／後／記

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、東京オリンピックをはじめとする多くのスポーツイベントが中止となりました。特に中体連や高校総体などの大会が中止となったことで、中高の最終学年の皆さんは悔しい思いをされていることと思います。今はまだ我慢の時ですが、いつの日にかきっと安全な環境の下で安心して再びプレーができる日がくることを一緒に祈りましょう！

(後藤)

予期せぬ事態に直面した時、私たちは何を考え、行動しなければならないのか。そんな時代が今まさに目の前に到来しています。近年のサッカー界の情勢に目を移すと、GPSデバイスやトラッキングシステム、VAR等、さまざまな先進テクノロジーが導入され、技術革新が急速に進展していることがうかがえます。すでに育成年代においても、こうした技術革新の一端が入ってきています。「KFA NEWS」では、そうした日々進化する世界、日本、そして熊本県のサッカーの魅力や充実した情報を発信しながら、一人でも多くの方が生涯にわたってサッカーに親しむことができるよう、これからも「サッカーの輪」をもっともっと広げていければと思います。

(坂井)